

第2回 国道169号 高原トンネル安全対策検討会 議事概要

- 1 日時 : 平成31年2月19日 15:30~17:00
- 2 場所 : 奈良県文化会館
- 3 出席者 :

委員長	(一社) 日本建設機械施工協会	施工技術総合研究所長	真下	英人
委員	(一財) 砂防・地すべり技術センター	理事	綱木	亮介
委員	国立研究開発法人 土木研究所	地質・地盤研究グループ		
		地質チーム 上席研究員	阿南	修司
委員	国立研究開発法人 土木研究所	道路技術研究グループ		
		トンネルチーム 上席研究員	日下	敦
委員	国土交通省 近畿地方整備局	道路部 道路保全企画官	河合	良治
委員	国土交通省 近畿地方整備局	河川部 河川保全管理官	竹中	一滋
委員	奈良県 県土マネジメント部	道路政策官	津風呂	雅彦
委員	奈良県 県土マネジメント部	次長	加藤	仁志

4 議事

- 1) 調査状況
- 2) トンネル変状の原因とその対応
- 3) 今後の進め方

主な議事内容

○調査状況

- ・トンネル内の亀裂変位計測結果について、亀裂開口幅がわずかに拡大傾向のものが見られる。温度変化の影響も考えられるため、今後も計測し検証していく必要がある。
- ・新設した孔内傾斜計等の結果について、微少な変位が見られる観測孔がある。今後、これらの孔において、継続計測を行うとともに、国において実施されるボーリング調査結果を踏まえて検証していく必要がある。

○トンネル変状の原因とその対応

- ・当該地区では、平成23年に実施している対策工の想定すべり面と異なる深度に地盤の変動が見られたことから、現在得られている地盤およびトンネルの変状に関する情報から3つのすべり面を想定した。しかし、すべり面の特定等の分析には、なお時間を要する状況。

- ・交通開放の緊急性に鑑み、現時点で想定されるすべり面とトンネルを対象に、監視体制の構築を行うとともに、今後蓄積される計測データによって恒久対策に向けた解析を進めて行く。
- ・周辺地盤の安定化に向けた地すべり対策として、想定される3つのすべり面に対し、浅い地すべりは、先行して災害復旧工事に対応し、残りは今後の計測結果を踏まえてその規模を確認し、状況に応じて対策する。
- ・2月1日から応急対策工事に着手しており、工事進捗は順調と言える。

○今後の進め方

- ・今後、暫定交通開放するには、「応急対策工事の実施」と「監視体制の構築」という2つの課題に対応する必要がある。
- ・「応急対策工事」を引き続き進めるとともに、「監視体制」の検討を行い、年度内を目途に開催する第3回検討会に諮る。